

【深泥池水生生物研究会第264回打ち合わせ会議事録】

開催日時: 2024年6月2日(日)14:00~17:00

井鷲裕司、松本悠太、田邊利幸、成田研一、大村麗奈、塩田貞子、高井利憲、宮本秋津、宮本水文、竹門康弘(敬称略・10名)

記録: 大村麗奈

1. 初参加の方々の自己紹介(松本、井鷲)

コバンムシの環境DNA分析を卒論テーマとする京大農学部4回生の松本さんおよび指導教員である井鷲先生からの自己紹介。検出系の作成のために深泥池のコバンムシを用いたいとのこと。抽出には1個体で充分と考えている。採取は、オオバナイトタヌキモマットの廃棄物の中に混入してしまうコバンムシを拾い出す方法を取るとのこととした。

2. 池に投機されているゴミの写真の回覧(山岸)

山岸さんから、池に投機されているゴミ写真の回覧があり、毎年浮いくるゴミを除去・回収しているとの説明があった。泥濘で入れず、取り除けない場所について質問があり、かつてゴミ除去をした際には長めのハシゴを合板の上に敷いて回収作業をした体験談があった。今後、過去の記録も含めたゴミの除去の成果資料を作成し、市の文化財保護課へ報告することになった。また、ボートの櫂の先端が公園に落ちており、これも回収したとの報告があった(なぜ公園に落ちていたのかは不明)。

3. 干しているジュンサイをシカが食べた可能性について(竹門・宮本秋津)

5月25・26日に刈り取り山道沿いに干していたジュンサイが、シカに半分以上食べられたとの報告があった。シカは、茎や葉をだけではなく根茎や根も食べるが、泥のついてる髭根は残していた。一方、オオバナイトタヌキモはほとんど食べないことがわかった。

以上の事実から、ジュンサイの根の泥をしっかりと洗えば、シカが根まで食べてくれると期待できる。ジュンサイの根茎をシカに食べさせることは、シカの他の植物への食圧を減らしつつ過剰なジュンサイが処理できるという点で、池の植生管理上有効な対策であるとの意見があった。

シカの正確な採餌量については、写真に撮るとともに、事前事後の重量を測って検証することにした。(その後、状況の詳細な把握のために宮本水文さん・秋津さんがトレイルカメラを設置した。6/2~6/8に撮影された写真は、6/9付で竹門さんに送信された。)

4. 底生動物モニタリング調査ポスターの修正について(高井)

これまでのポスターは日付が小さくて見にくいので大きく修正し、Google formの連絡先を高井さんに、チラシの連絡先は田中さんにすることにした。これらの修正は高井さんがすることになった。

5. いきものフェス展示案について意見(竹門)

いきものフェスで生物を展示する際に、アメリカザリガニ、ウシガエル、ブルーギル、オオクチバス、カダヤシなどの特定外来種は移動に許可が必要になるため、写真で展示することとした。オオバナイトタヌキモとタヌキモについては、違いを実物で観察してもらうこととした。

6. すっぽんがエリ網を破ることについて(塩田)

毎回スッポンがエリ網に入って網を破るので早く対策が必要である。そこで、保津川漁業協同組合長の磯部さんに修繕道具一式を借りることとした。穴を繕う糸については、強く切れにくいPEラインが良いという意見が出た。

7. 深泥池のプランクトン採集についての注意(塩田ほか)。

現状変更申請が必要であることを知らずに、京都先端科学大学永野真理子先生が深泥池のプランクトンを採集してしまったと報告があった。(その後、同様のことが起こらないように、大村が6/3

にメールで事情説明ならびに注意喚起をするとともに、現状変更申請項目に加えるために研究計画の送付をお願いした。)

8. その他

(ア) 底生動物調査のイベントの団体保険について(塩田、山岸、田中)

50人以上100人未満で申し込むことにした。

(イ) 助成金の申請項目の洗い出しを行った(高井)

今後の予定

水質調査(斉藤さん, 今井さん)2024年6月5日 10:00～

ジュンサイの除去: 2024年7月14日(日)まで

次回打合会:2024年7月13日(土) 14:00～17:00

宝ヶ池連続学習会・水生動物調査:2024年7月14日(日)10:00-15:00

ジュンサイ除去後のドローン空撮:7月15日以降を予定

底生動物調査:2024年8月12日(月・祝) 12:00～15:00

次次回打合会:2024年9月1日(日) 14:00～17:00